

中長期目標(学校ビジョン)	今年度の重点目標
1. 鳥取県内有数の進学校としての地位の確立 ①国公立大学・難関私大現役合格率6割以上確保 ②進研模試、校外模試において学年平均偏差値60以上確保 2. 「学力面で優れた生徒＝人格的にも優れた生徒」 という湯梨浜学園の生徒像確立 【目指す生徒像】 ①自ら考え、自ら行動できる生徒 ②他を思いやり、受け入れることのできる生徒 ③支え合い、共に成長できる生徒 ④夢の実現に向けて努力する生徒	1. 学習指導の充実と進路指導の強化 ・国公立・難関私大合格15名以上を目指す。並びに国立難関大、国公立医学科3名以上合格を目指す。 ・各学年、校外模試における全国偏差値平均を3ポイントアップ(高1、7月進研模試を基準として)の実現、維持を図る。 ・「伝わる」ことを意識した授業、授業を通じての生活指導、家庭学習の充実。 2. 学校運営の充実 ・各分掌の活動を充実させ、他の分掌、他の職員と連携を図りながら、校務が機能的に運営されることを目指す。学年団としての連携、指導強化を図る。 ・校内・校外における研究授業、職員研修を充実させる。 ・学級通信、HPなどで、伝えたい内容、保護者が必要としている内容を吟味し、保護者への情報提供に努める。 3. 生徒指導の徹底と教育相談の充実 ・「あいさつ」「返事」「掃除」の3つの柱に関して、凡事徹底の推進。 ・個別面談などを通し、生徒理解に努め、教育相談、スクールカウンセラーとの連携で悩みの解決や相談にあたる。 4. 人権教育の推進 ・あらゆる場面、あらゆる教科で、すべての先生が人権教育視点に立った教育を行う。

評価は S(達成) A(ほぼ達成) B(あと一歩) C(未達成) です。

評価項目	具体的項目	中間評価	達成状況(年度末)と次年度の課題	評価
1. 学習指導の充実と進路指導の強化	教務力の向上	B	大学入試問題を活用した専門科目試験を、教員対象に実施し始めてから4年目になる。全教員が自己研鑽に励むような声かけ、意義付けを継続していきたい。また、1教科1回ずつ授業研修を実施し、その後の検討会も行った。次年度以降も継続させたい。	A
	国公立・難関私大合格15名以上	/	学校全体でフォローする体制をとり、数値目標は達成した。今後は本校が目指す位置に向けての取り組みをしていきたい。	B
	校外模試3ポイントアップ		C	数値目標が達成できた科目もあるが、学年、科目によるアンバランスの解消に向けて努力を継続したい。
	授業を通しての生活指導	B	授業中にも生活指導の目線を一定以上保つことができるよう、更なる指導力強化を目指したい。	B
2. 学校運営の充実と教育環境の整備	各分掌活動の充実・連携	B	原則一人1分掌にして、各自が責任をもって分掌業務をすることはできた。次年度は従来の姿に戻して、負担感の解消のための最善策を模索したい。	B
	学年団としての連携、指導強化	A	ほとんどの学年が、担任・副担任でしっかりとコミュニケーションをとりながら運営できた。3年目を迎えた通信制では、全日制の教員への協力体制がスムーズに行えるようになった。	A
	校内・校外における研修の充実	A	校内における授業研修は実施できた。校外における研修も必要に応じて参加することはできた。授業以外の研修も充実させるよう努めたい。	A
	学級通信などを通じての情報提供	B	学級通信、部活動通信など定期的に発行できた。また、地域の子どもたちが本校の部活に参加できる仕組みが軌道にのりつつある。中部地区の小中学校にも本校の通信文書などを持参し、情報提供につとめている。	A
3. 生活指導の徹底と教育相談の充実	生徒との教育相談の機会の充実	A	少人数学級の特長は十分活かされている。生徒にとって相談しやすい教員に相談できる環境は作られている。	A
	「あいさつ」「返事」「掃除」の徹底	B	「あいさつ」は個人差があるものの、一定の評価をいただいている。「掃除」における質的な向上を実現し、本校の生徒指導の3本柱がしっかりするように努力したい。	B
4. 人権教育の推進	教職員の人権意識の向上	B	対外的な研修に参加する教員も増えてきつつあり、今後も継続的に人権意識の向上に努めていきたい。	B